

ちぐはぐ

音無 早矢

お互いの熱を預けているあいだ布団の角はちよつと寂しい
ろくでもない人間だけど体温がなくなるころは養分になる
半袖の露出している部分から直に感じるわたしの弱さ
親指の爪が割れている 人間の不完全さが時折わかる
人間と認識しているものにだけ素顔を見せる勇気が出ない
常温の水は水です 常温の人間風情が考えること
まばたきの間に人の感情は揺れ動くもの 解答はじめ
利き手からこぼれてしまう鉛筆を拾ってくれる利き手じゃない手
腕の毛が斑に生えていることが少しおかしく思える夜ね
寝て起きて最後にはまた眠るから羊を数えるのも飽きてくる
カーテンは人間のことをよく知って居るみたいだね 包まれに行く
仕事の日 そうではない日 七歳も離れた姉の式を見に行く
しりとりで「ぎ」から始める人がいて魏志倭人伝で終わらせる人
人間の友達という営みに馴染めた人が使うアイテム
数ページ書いて諦めた手帳が見つかる大掃除のきっかけ
吾輩は猫ではないが定義から変えれば猫になる世界線
口紅の色の区別を適当にしてもまたふえていること
レントゲン室に入ってゆくときの僅かな匂いの違いが嫌い
くしゃくしゃのレシートで財布が埋まるのは人間であるからだろう
角砂糖を入れる個数を考えてやっぱ入れないという選択肢
AndanteからはじまってModeratoで終わる映画のはじめの五分
結末を置き去りにしていかないと 誰もが知っているべきじゃない
退屈な日の昼頃は退屈の最頻値を取るのに適している
採血のあいだに新作バーガーのこと考えてすぐに忘れる
生活であんまり使うことないし人生に√つけてみたいね